

ひかり野

Saga
University
Library
Bulletin

No.46
July 2022

目次

CONTENTS

図書館という出会いと静寂の場 館長	1
本との関わり 副館長	2
医学分館リニューアルオープン	3
Web学生選書ツアー / 「秋のわくわくりクエスト祭り」	4
オリエンテーション・講習会	4
本館4階事務室の1階元グループ学習スペースへの移転	4
図書館月間2021	5
佐賀県内図書館物流への試行的参加	6
日本語の歴史的典籍の 国際共同研究ネットワーク構築計画への参画	6
受入資料紹介	7
人事異動	7
図書館統計	8
歴代館長・副館長	12
図書館の運営体制	12
館内マップ、各係の紹介	13
図書館日誌(行事・会議・研修等)	14
貴重書紹介 小城藩の「旧記方」について	



図書館という 出会いと静寂の場

館長 中里 理子

この数十年で図書検索機能は格段に進歩した。調査したい分野の文献検索がネット上で気軽にできる。はるか昔、手作業で「図書カード」をめくって調べたことを、遠い目をして思い出す。インターネットの普及のおかげで研究の効率も上がり、便利な世の中になった。その一方で、私自身は図書館をゆっくり見て回る機会が減ったことも感じている。検索した文献を見つけるだけなら、図書館に行かなくても用が足りるようになってきた。確かに便利なのだが、物足りなさも感じてしまう。目的の本をそこで探すことだけが図書館の役割ではない。図書館の本来の魅力は、図書館に足を運んでこそ実感できるのである。

だが、まずは最近の有難い検索機能に言及しておこう。佐賀大学附属図書館のサイトには、所蔵資料・データベース・電子ジャーナル等を一挙に検索できる「まとめて検索」の機能が加わった。たとえば、ジェンダーと言語の関係について調べたい場合、「ジェンダー 言語」という検索ワードを入力すると、937件がヒットする(2022年4月28日現在)。検索結果が多いのは、ほとんどが雑誌論文だからである。雑誌論文は機関リポジトリによってダウンロード可能なものがあり、すぐに読める点で大変便利である。一方で、900件以上のタイトルを眺めて目的に近い文献を探すのはかなり困難だ。便利なものを使いこなすにはそれなりの技術が必要なのだとわかる。検索ワードを増やすか、あるいは「図書」「雑誌論文」「本文あり」等の絞り込みによって手に入れやすい文献から見ていくことができる。

さて、検索のトップに表示された言語学とジェンダーの本を探しに図書館に行ってみる。すると、その傍にある社会言語学や言語心理学の面白そうな本に目がとまる。『言語と貧困』『言葉・権力・差別』……これらの本は、もはやジェンダーと直接の関わりはない。が、興味を惹かれて手に取ってみたいくなる。図書館の良さは、まさにここにあると思う。ジェンダーと直接的な関係はなくとも、これらの本は、ジェンダーと言語について広く見渡す発想を与えてくれるかもしれない。社会を広く捉える視点を与えてくれるかもしれない。未来の図書館では開架書架が減少あるいは皆無となる可能性もあるが、もしそうなれば、私にとって、図書館の有用性はあっても魅力は殆どなくなる。様々な本を直接目にし、装丁を眺め、手に取って活字を確認する経験は貴重である。オンライン検索では自分の興味が限定され、その範囲内の書籍にしか辿り着けないが、図書館の書棚を見ていると、周辺のさまざまな情報が目に入る。思いがけない書物との出会いがそこにはある。

さて、検索のトップに表示された言語学とジェンダーの本を探しに図書館に行ってみる。すると、その傍にある社会言語学や言語心理学の面白そうな本に目がとまる。『言語と貧困』『言葉・権力・差別』……これらの本は、もはやジェンダーと直接の関わりはない。が、興味を惹かれて手に取ってみたいくなる。図書館の良さは、まさにここにあると思う。ジェンダーと直接的な関係はなくとも、これらの本は、ジェンダーと言語について広く見渡す発想を与えてくれるかもしれない。社会を広く捉える視点を与えてくれるかもしれない。未来の図書館では開架書架が減少あるいは皆無となる可能性もあるが、もしそうなれば、私にとって、図書館の有用性はあっても魅力は殆どなくなる。様々な本を直接目にし、装丁を眺め、手に取って活字を確認する経験は貴重である。オンライン検索では自分の興味が限定され、その範囲内の書籍にしか辿り着けないが、図書館の書棚を見ていると、周辺のさまざまな情報が目に入る。思いがけない書物との出会いがそこにはある。

図書館の良さはもう一つある。図書館という空間の持つ静寂の魅力である。九州地区の図書館の会議で、ある大学の図書館長が「学生は静けさを求めて図書館に来る」と話していた。大学ではアクティブラーニング全盛で、教室でもどこでも話し合いの音がうるさいため一人で静かに集中する時間がほしい、と学生が言ったそうだ。その学生の気持ちに深く共感する。私は国立国会図書館をよく利用するのだが、あらゆる資料が閲覧できるという利点に加えて、あの空間が私にとってパワースポットのように感じられるのだ。広々とした館内、多くの人が集中している静寂の空間。周囲の雑音に悩まされることなく集中できる空間という点も、図書館の良さである。

忙しい現代、ゆっくり図書館を訪れるのは難しいかもしれないが、目的を持たない行動もたまにはよいのではないか。図書館の魅力は図書館を訪れないとわからない。検索した本に一直線に向かうだけではなく、その本の周りを、隣の書棚を眺めてほしい。目的や興味を限定せず、周りを見渡して広く深く学ぶことによって、豊かな知識を身に着けることができる。そして、静寂の中で自分の興味とじっくり向き合える。これが図書館の魅力であると思う。



本との関わり

副館長 市場 正良

今年4月から、副館長(医学分館長)を務めます市場です。医学部社会医学講座環境医学分野の所属です。社会医学講座とは何か。医学といえば、附属病院での内科、外科等の臨床医学を思い浮かべるでしょう。一方、私達は、病気の予防に関わる衛生学、公衆衛生学と呼ばれる分野です。予防ですから、病院の外での活動となります。その中で、私の専門は、環境医学、産業医学です。身の回りや職場での化学物質等の健康影響を考える分野です。そのために、気中や生体内の化学物質やその代謝物の分析など行ってきました。学内の兼任業務として環境安全衛生管理室で、佐賀大学の省エネの取組や研究室の化学物質管理にも関わっています。

医学分館は、前任の城戸先生が改修に取り組み、この4月に改修が終わりました。4月21日から開館しています。医学部の学生の皆さんは、勉強スペースの確保を待ち望んでいたことで

しょう。改修では、書庫のスペースを減らし、学習のためのスペースを広げています。コロナ禍の影響で、まだ100%の活用とはいきませんが、グループ学習のための場所も十分に確保しています。

医学分館の建物自体は、1980年に統合前の佐賀医科大学図書館として開館されました。1期生が入学したのは、78年ですが、その当時は、図書館でなく、講義棟内の図書室でした。開館の80年は、私達が、3期生として入学した年です。微かに覚えているのは、新入生の図書館オリエンテーションで、まだ正式な開館前だということで、絨毯が汚れてはいけなくて、私達は、玄関で靴を脱いで、館内の案内を受けた記憶です。40年たって、再び開館に関わることができ、感慨深いものがあります。

私自身は、本は好きな方ですが、分館の本をたくさん読んだ記憶はありません。以前住んでいた自宅の近くの新築だった市立図書館にはよく出かけました。現在の自宅近くには、県立図書館があり、ここ数年は2週ごとに通っています。県立は、市立と比べると、古くて狭いですが、便利に使わせてもらっています。借りて読んだ本は、記録をつけているのですが、見直すと、ここ10年では500冊ほどになります。ほとんどは小説ですが、多いのは、吉村昭、今野敏、浅田次郎、東野圭吾など。以前は、吉村昭の歴史小説にはまっていました。医学関係もいくつかあります。最近では、今野敏の警察小説、任侠小説が面白いです。浅田次郎は、重厚な歴史ものから、やくざものまで幅広いです。作家の創造力はすごいです。また、医学に関するものでは、最近では、「人体大全」が、面白かったです。一般の人向けの、解剖生理の本ですが、改めて体の不思議を考えるきっかけになりました。

一方、市内の書店が減っていることは残念です。特に、佐賀駅からなくなったことは、とても残念です。JRの待ち時間にいつも寄っていたのですが、ずっと昔は、市内のにぎやかな商店街に大きな書店があり、待ち合わせ場所としてもよく使っていたのですが、郊外のショッピングセンターの進出で、商店街の人通りが減り書店もなくなってしまいました。

分館長として改めて図書館のHPを見直すと、今まで知らなかった便利な機能が満載です。書棚をめぐる今まで気が付かなかった面白そうな本もたくさんあります。貸出履歴も残ります。改めて、学生の皆さんは、ぜひ利用してもらいたいものです。医学以外の本も揃えています。学生だけでなく、教職員の皆さんも利用ください。学生、教職員、また市民の方々もよりよく利用してもらえらる仕組みを考えていきます。

医学分館リニューアルオープン

令和4年4月21日、佐賀大学鍋島キャンパスの附属図書館医学分館が改修工事を経てリニューアルオープンしました。

館内の照明に対してLEDを採用し、大幅に館全体が明るくなると同時に、空調方式の変更および高効率設備機器の採用により省エネ効果が期待できます。

アクティブラーニングの推進として、個人やグループでの多様な人材による多彩な学習スタイルに対応しています。1階には、話をしながら学習するアクティブラーニングを行うフロアとして、新たにコラボレーションエリア、ディスカッションルーム、個室を整備し、グループ学習やオンライン会議、視聴等に対応した什器、無線LAN等を設置しています。また、ラウンジを設けたり、ホールや2F書架の近くにソファを設置して、リフレッシュできる環境を整備しています。さらに、コラボレーションエリアに関しては、机と椅子は可動式で講義・研究会等も開催可能(事前申請必要)であり、地域の知の創造の場として、学生・教員・多様な医療者、地域の共創空間となるオープンスペースを備えています。

2階には、静かで落ち着いたフロアとして、新たに防音ガラスを採用したサイレントエリアを整備しています。また、壁をガラス張りにすることで、見通しがよく広々とした空間を形成し、学びの可視化をしています。本に関しては、今まで1階と2階で所蔵が別れていたものが、2階にまとめ、資料が探しやすくなっています。

今回のリニューアルで、医学分館は大きく改善されましたので、より多くの人に利用され、医学分館が学修の場、交流する場となることが期待されます。



新入生オリエンテーションの様子(コラボレーションエリアの利用)



1Fコラボレーションエリア



2Fサイレントエリア



2F開架書架

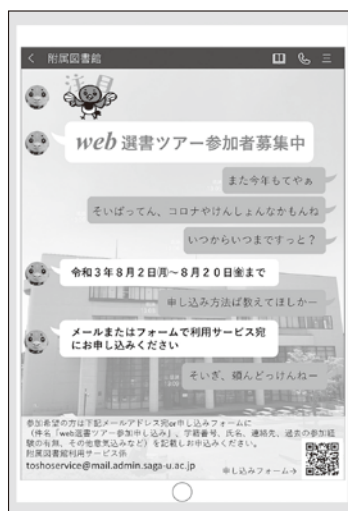


2Fバックナンバーコーナー

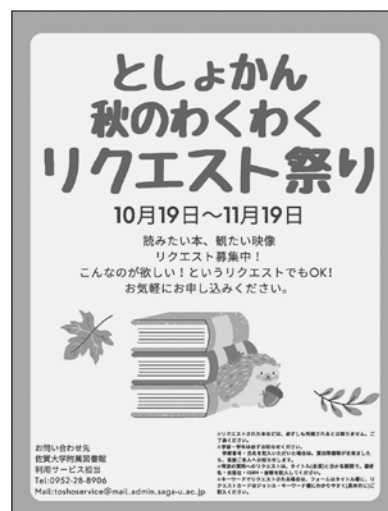
Web学生選書ツアー / 「秋のわくわくリクエスト祭り」

例年夏季休業期に実施している選書ツアー（希望する学生を募って書店へ赴いて選書するイベント）ですが、コロナ禍のため実施することができなかつたため、昨年度に引き続き、“Web選書ツアー”を行いました。希望者を募ってインターネット上の情報源から選書してもらい、ウェブ上に設けた専用フォームから図書の情報を入力してもらおうというものです。令和3年度は16名の学生が参加し、約180冊の図書を購入了ました。

また、10～11月には、読書の秋にあわせて「としょかん秋のわくわくリクエスト祭り」を開催しました。学生の読書需要を幅広く取り入れるため、Web選書ツアーと異なり、無記名でも参加でき、また特定の図書を指定して選書しなくても「〇〇についての図書」や「〇〇の書いた小説」などキーワードでもリクエストできるものとなりました。リクエストされたものは館内で精査し、結果として、映像資料を含めた約270点を購入了ました。



Web選書ツアーポスター



秋のわくわくリクエスト祭りポスター

オリエンテーション・講習会

令和2年度に引き続き、3年度も年度のはじめに行う新入生オリエンテーションは、コロナ禍のため実施できませんでした。そのため、2年度同様に参考資料のウェブ上での配布や、オンラインの講習で代替しました。今年度はこれに加えて、館内9か所に、各コーナーの説明や図書館の利用方法について記載した案内ボードを設置し、新入生などが来館した際に図書館の使い方を学べるよう工夫しました。

本館4階事務室の1階元グループ学習スペースへの移転

令和4年3月に利用者の方の利便性向上及び事務の効率化により、4階事務室を1階元グループ学習スペースへ移転いたしました。

図書館月間2021

毎年11月を図書館月間と称し、貴重書の展示や講演会等を開催しています。コロナ禍であった令和3年度は、学外の方の入館ができないため、初めてオンラインのイベントを開催しました。

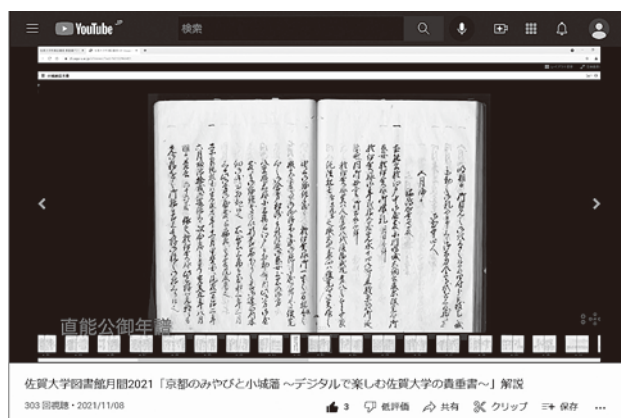
附属図書館が所蔵する小城鍋島文庫には、「都名所図会」「卅六人歌合」など、江戸時代に芸術や文化の中心地であった京都に関係する地図や絵を盛り込んだ書物や京都にゆかりの貴重書が多数存在します。これらからは、当時の小城藩と朝廷との交流をうかがうことができます。

今回の図書館月間では、「京都のみやびと小城藩 ～デジタルで楽しむ佐賀大学の貴重書～」と題し、こうした京都に関する貴重書を、令和2年度にリニューアルしたばかりの貴重書デジタルアーカイブで公開し、同時に附属図書館のホームページで各貴重書に関する解説を掲載したことに加え、本学地域学歴史文化研究センターの三ツ松誠講師による解説動画をYouTubeで公開しました。

同時に本学の学生・教職員に向けて本館エントランスホールにて実物の展示も行いました。

今回の図書館月間で公開した貴重書は、貴重書デジタルアーカイブ上で継続して公開しています。また、三ツ松講師による解説動画も、佐賀大学の公式YouTubeチャンネルである、「チャンネル佐賀大学」において現在も公開中です。

佐賀大学附属図書館貴重書デジタルアーカイブ：<https://www.dl.saga-u.ac.jp/>



解説動画



図書館月間2021ポスター

佐賀県内図書館物流への試行的参加

附属図書館では、全国の大学図書館や公共図書館との間で図書の貸し借りをを行い(相互貸借)、蔵書では対応できない利用者のニーズに応えてきました。

一方、佐賀県では、“だれでも、いつでも、どこでも、なんでも”必要な情報が手に入る先進県づくりの一環として、佐賀県内の公共図書館等からなる独自の図書配送システム(佐賀県内図書館物流)を構築し、平成22年度から運用されています。この配送システムでは、週に3回の集荷・配送が行われ、迅速な相互貸借が行われています。

この事業を大学図書館にも拡大するため、令和3年、佐賀県立図書館より佐賀大学附属図書館に、この物流に翌年度から試行的に参加することについて依頼があり、本学で検討し、令和4年度から試行的参加を行うことになりました。

これにより、本学学生・教職員が県内の公共図書館の図書を無償で取り寄せて、佐賀大学附属図書館で借りることができるようになります。また、佐賀県の各公共図書館の利用者は、附属図書館の図書をより借りやすくなります。

日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画への参画

令和3年、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館より「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」(略称:「歴史的典籍NW事業」)への、佐賀大学附属図書館の参画について依頼があり、学内での検討を経て令和4年1月28日に、かかる覚書を締結しました。

同事業は、国文学研究資料館が中心となって、国内外の大学等と連携し、古典籍約30万点の画像化を行い、これを検索できる「新日本古典籍総合データベース」という研究基盤を作って、国際的な共同研究のネットワークを構築するもので、令和5年度までの10年間で行われるものです。

今回、附属図書館が参画を依頼されたのは、所蔵する貴重書のうち、一部の日本語典籍の画像提供についてです。貴重書デジタルアーカイブに収載しているデジタル画像を提供するほか、国文学研究資料館の出資により新たにデジタル画像化(撮影)をするものもあります。新たに撮影したデジタル画像は、「新日本古典籍総合データベース」に提供の後、本学においても貴重書デジタルアーカイブ等で再利用することができます。

受入資料紹介

学生用図書

令和3年度は、以下のとおり図書を購入しました。

教員推薦図書912冊、学生希望図書471冊、図書館推薦図書2,858冊、継続購入図書476冊

寄贈図書

・経済学部准教授 上山和俊

2020年版 佐賀県 中小・小規模企業白書

・市川澄子

私の贈り物 MY GIFT

・坂井一実

佐賀近代史研究序説～金融・銀行業を中心に～

・鶴田幸一

伝 幡随院長兵衛三代

(敬称略・順不同)

人事異動

(令和3年4月2日～令和4年4月1日)

異動区分	発令年月日	氏名	異動後	異動前
配置換	3.10.1	実松 拓磨	情報図書館課副課長	財務部財務課副課長
配置換	"	森 暁子	学務部学生生活課副課長	情報図書館課副課長
併任	4.4.1	中里 理子	附属図書館長	
併任	4.4.1	市場 正良	附属図書館副館長	
配置換	4.4.1	疋田 恵介	情報図書館課係長 (学術情報主担当)	情報図書館課係長 (利用サービス主担当)
配置換	4.4.1	井上 謙一	総務部総務課係長 (事務センター主担当)	情報図書館課係長 (総務主担当)
配置換	4.4.1	上原 ひろ美	情報図書館課係長 (総務主担当)	情報図書館課係長 (図書・雑誌主担当)
配置換	4.4.1	伊東 雄一郎	情報図書館課係長 (図書管理主担当)	学務部教務課係長 (教務管理主担当)
配置換	4.4.1	川部 修平	情報図書館課司書 (学術情報担当)	情報図書館課司書 (医学分館担当)
配置換	4.4.1	山崎 常心	医学部総務課事務員 (総務担当)	情報図書館課事務員 (利用サービス担当)
配置換	4.4.1	大橋 弘世	医学部学生課事務員 (大学院教育担当)	情報図書館課事務員 (図書・雑誌担当)

図書館統計

《令和4(2022)年3月31日現在》

基盤統計

蔵書冊数

(冊)

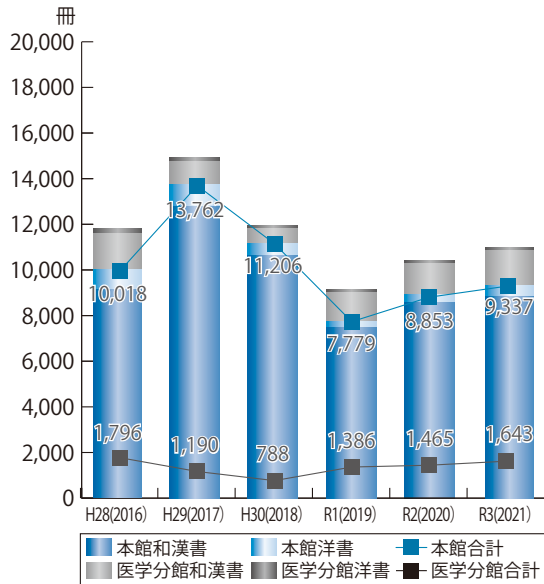
	和漢書	洋書	合計
本館	405,211	166,491	571,702
医学分館	69,591	43,007	112,598
合計	474,806	200,504	684,300

雑誌所蔵種類数

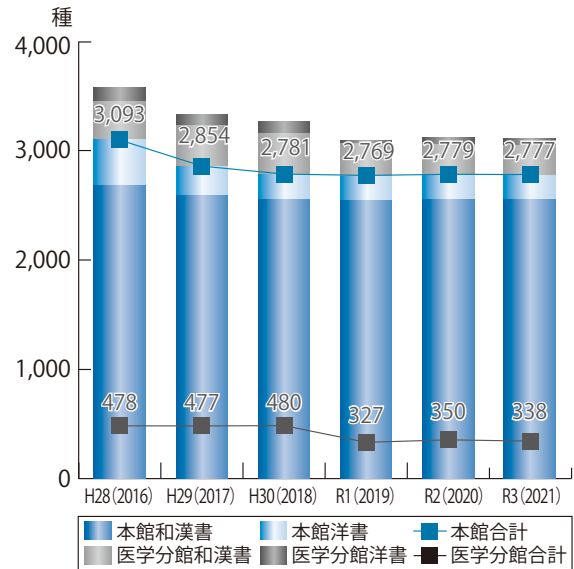
(種)

	和漢書	洋書	合計
本館	6,544	2,977	9,521
医学分館	1,247	1,122	2,369
合計	7,791	4,099	11,890

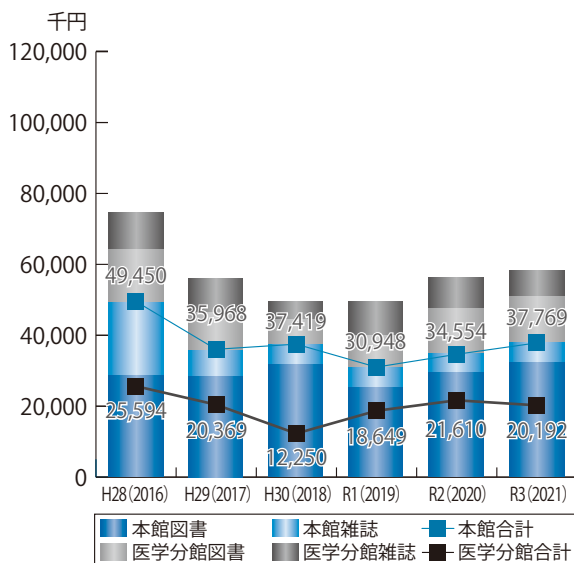
図書受入冊数



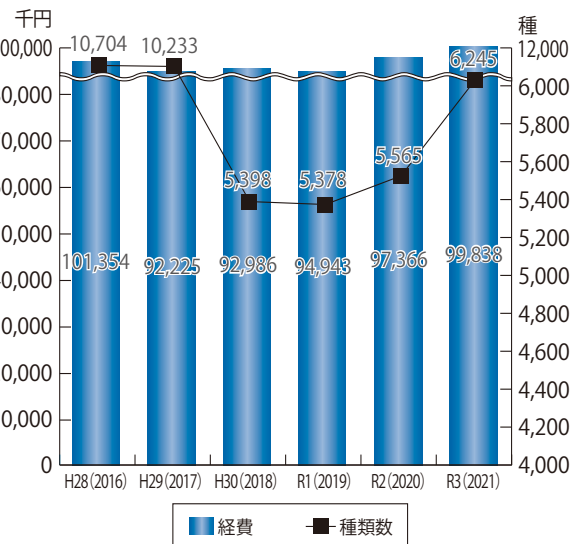
雑誌受入種類数



図書館資料費



電子ジャーナル経費と種類数



サービス統計

開館日数

〈令和3(2021)年度〉(日)

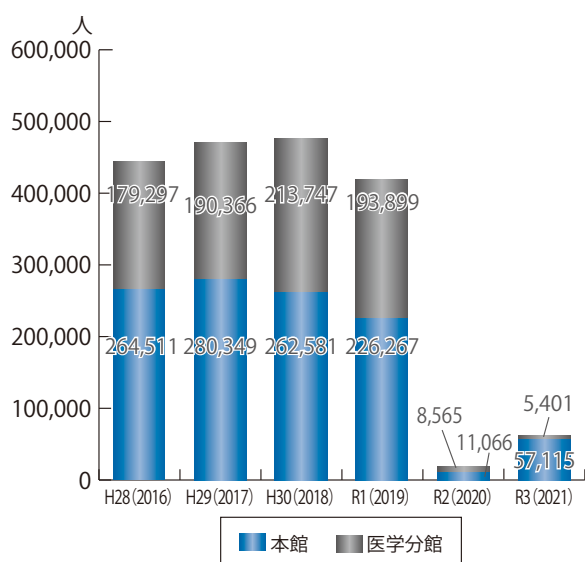
	本館	医学分館
平日	233	171
土・日・祝日	107	35
合計	340	206

利用対象者数

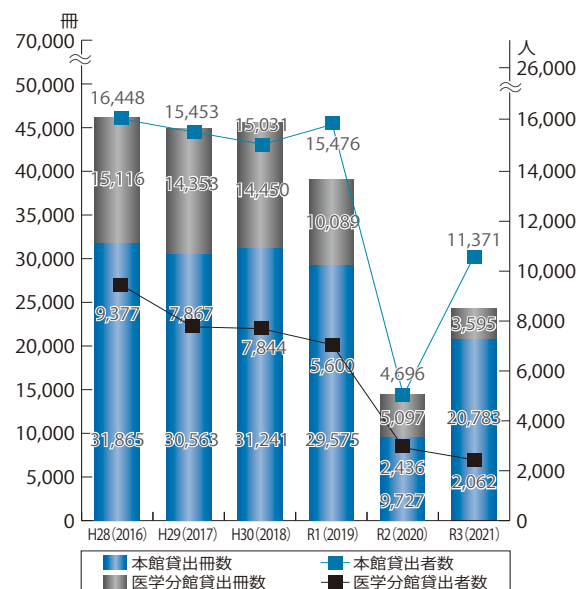
〈令和3(2021)年5月1日現在〉(人)

	合計
学生	6,598
教職員	2,078
合計	8,676

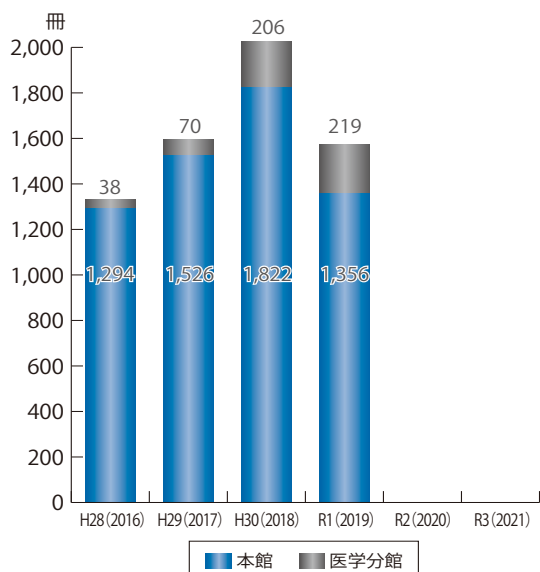
入館者数



貸出冊数と貸出者数

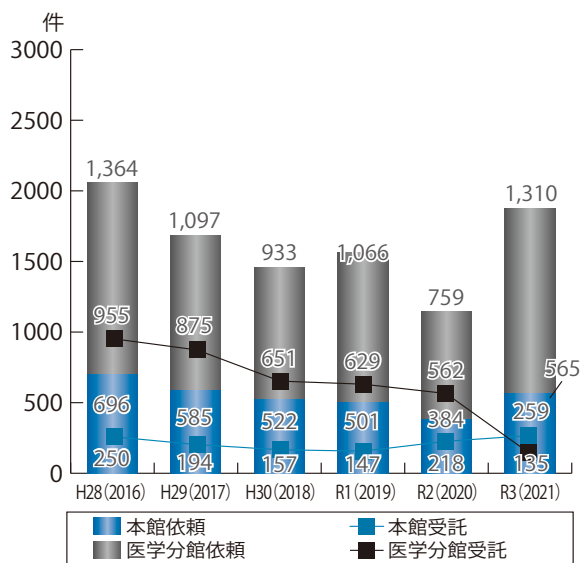


一般市民への貸出冊数

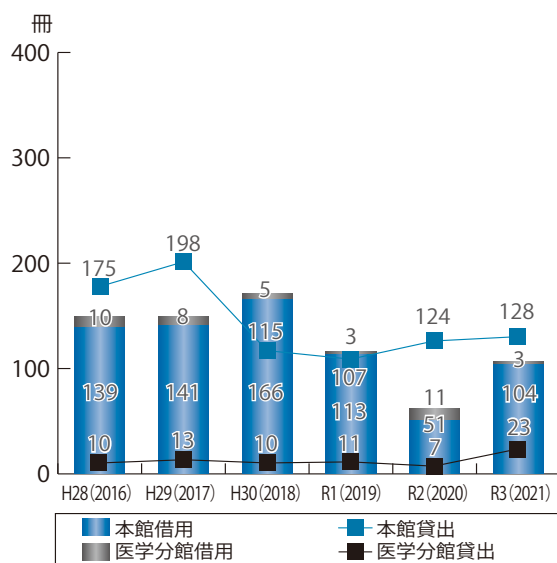


※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため学外者利用制限

文献複写件数



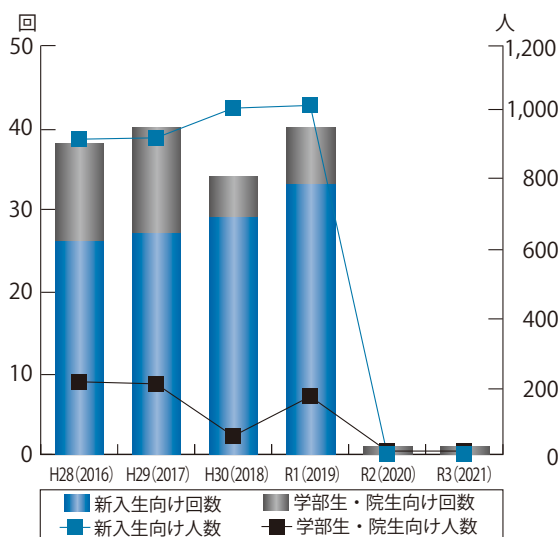
相互貸借冊数



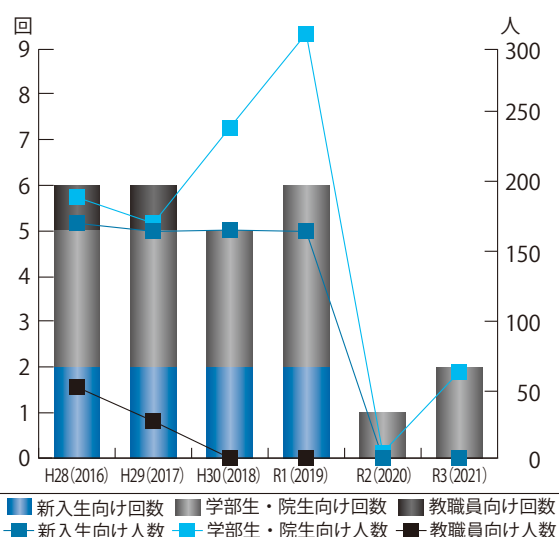
図書館オリエンテーション・講習会

			H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)
本館	新入生向け	回数	26	27	29	33	0	0
		人数	924	928	1,015	1,023	0	0
	学部生・院生向け	回数	12	13	5	7	1	1
		人数	213	207	54	170	10	10
医学分館	新入生向け	回数	2	2	2	2	0	0
		人数	172	166	167	166	0	0
	学部生・院生向け	回数	3	3	3	4	1	2
		人数	191	172	242	311	4	63
	教職員向け	回数	1	1	0	0	0	0
		人数	52	27	0	0	0	0
本館	参加総数		1,137	1,135	1,069	1,193	10	0
医学分館	参加総数		415	365	409	477	4	63
参加総数(合計)			1,552	1,500	1,478	1,670	14	63

本館

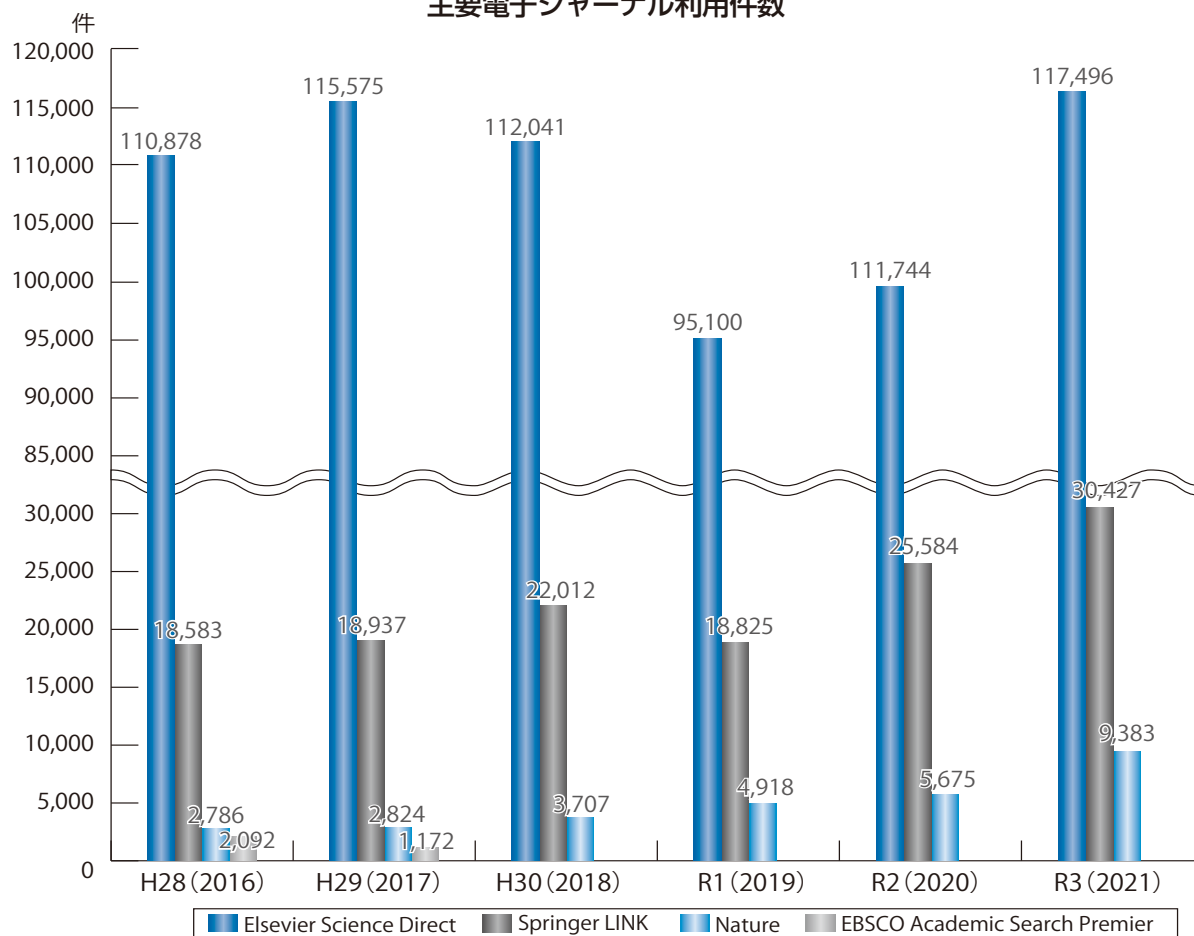


医学分館



新型コロナウイルス感染対策のため、令和2・3年度は、対面による新入生向けオリエンテーションは実施せず、図書館案内の動画等をホームページ上で配信することで代えた。

主要電子ジャーナル利用件数



・EBSCO(Academic Search Premier) は H28(2016) から ・EBSCOはH30から中止

文献データベース利用件数

	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)
Scopus	12,011 (33,922)	10,413 (33,136)	10,506 (28,737)	(26,458)	(25,331)	(26,781)
間蔵	730	1,035	1,720	1,239	412	580
ヨミダス歴史館	(453)	(918)	(3,287)	(2,184)	(970)	(1,574)
日経テレコン	(147,244)	(285,718)	(201,356)	(78,241)	(53,382)	(83,587)
日経BP記事検索	(5,623)	(5,624)	(3,931)	(2,393)	(1,766)	(1,727)
ジャパンナレッジ	647 (4,314)	791 (4,760)	626 (3,710)	549 (2,966)	807 (5,386)	1,436 (9,111)
UpToDate	(2,642)	(4,416)	(3,414)	(3,355)	(3,333)	(2,869)
メディカルオンライン	(26,787)	(25,159)	(29,208)	(27,374)	(23,345)	(23,070)
医中誌Web	(64,202)	(51,640)	(61,528)	(63,226)	(36,104)	(47,114)

*括弧内は検索回数または本文利用回数

歴代館長・副館長

歴代館長(統合後) ※平成15年10月1日 佐賀医科大学と統合

氏名	所属部局	期間	年	月
宮島 敬一	経済学部	平15.10.1～ 平16.3.31	0	6
小倉 幸雄	理工学部	平16.4.1～ 平18.3.31	2	0
高崎 洋三	医学部	平18.4.1～ 平20.3.31	2	0
相澤 照明	文化教育学部	平20.4.1～ 平22.3.31	2	0
稲岡 司	農学部	平22.4.1～ 平26.3.31	4	0
富田 義典	経済学部	平26.4.1～ 平28.3.31	2	0
米山 博志	工学系研究科	平28.4.1～ 平30.3.31	2	0
山崎 功	芸術地域デザイン学部	平30.4.1～ 令2.3.31	2	0
大島 一里	農学部	令2.4.1～ 令3.3.31	1	0
石丸 幹二	農学部	令3.4.1～ 令4.3.31	1	0
中里 理子	教育学部	令4.4.1～		

歴代副館長

氏名	所属部局	期間	年	月
高崎 洋三	医学部	平15.10.1～ 平18.3.31	2	6
武田 淳	農学部	平18.4.1～ 平20.3.31	2	0
徳永 蔵	医学部	平20.4.1～ 平22.3.31	2	0
吉田 裕樹	医学部	平22.4.1～ 平24.3.31	2	0
田中恵太郎	医学部	平24.4.1～ 平26.3.31	2	0
熊本 栄一	医学部	平26.4.1～ 平28.3.31	2	0
宮本比呂志	医学部	平28.4.1～ 平30.3.31	2	0
池田 義孝	医学部	平30.4.1～ 令2.3.31	2	0
城戸 瑞穂	医学部	令2.4.1～ 令4.3.31	2	0
市場 正良	医学部	令4.4.1～		

図書館の運営体制

附属図書館長・副館長

令和4年4月1日現在
 附属図書館長 中里理子(教育学部教授)
 附属図書館副館長 市場正良(医学部教授)

附属図書館運営委員会

令和4年4月1日現在
 委員長 中里理子(附属図書館長)
 委員 市場正良(附属図書館副館長)
 堀良彰(総合情報基盤センター長)
 中村博和(全学教育機構副機構長)
 吉岡剛彦(教育学部 教授)
 湯之原 淳(芸術地域デザイン学部 准教授)
 吉田友紀(経済学部 准教授)
 村久保雅孝(医学部 准教授)
 岡田拓三(理工学部 教授)
 石丸幹二(農学部 教授)
 唐沢裕之(学術研究部長)

附属図書館医学分館運営委員会

令和4年4月1日現在
 委員長 市場正良(附属図書館副館長)
 委員 村久保雅孝(医学部 准教授)
 藤野成美(医学部 教授)
 井原秀之(医学部 准教授)
 松本明子(医学部 准教授)

館内マップ、各係の紹介

◆総務を担当

図書館運営のための総務全般を担当しています。

【業務内容】

- (1) 各種会議及び諸行事
- (2) 図書館所管の規程等の整備及び法人文書管理
- (3) 物品、資産の管理及び建物、設備の維持管理
- (4) 調査、統計、広報及び諸報告
- (5) 図書館の広報
- (6) 予算の管理並びに決算
- (7) 勤怠管理

◆図書管理を担当

図書や雑誌が館内に配架されるまでを担当しています。図書・雑誌だけでなく、電子ジャーナルも契約しています。

【業務内容】

- (1) 図書館資料(電子資料を含む)の収集、選択及び受入
- (2) 図書の除籍、除却
- (3) 図書館資料(電子資料を含む)の目録編成、管理
- (4) 図書館資料費の予算管理

◆学術情報を担当

図書館の利用全般を担当しています。カウンターなどで利用者みなさんと接する機会の多いスタッフです。

【業務内容】

- (1) 図書館資料(電子資料を含む)の閲覧、貸出及び管理、保全
- (2) 閲覧室及び書庫等の管理及び保全
- (3) 図書館及び図書館資料(電子資料を含む)の利用支援
- (4) 文献複写、図書の相互利用
- (5) 機関リポジトリの構築、運用
- (6) 貴重書の保存、活用
- (7) 図書館システムの保守、管理及び運用

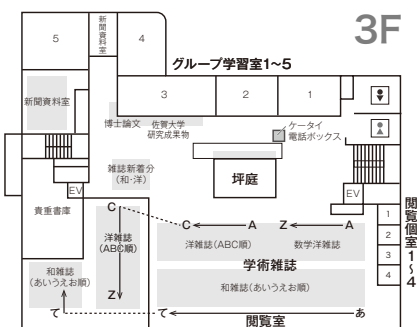
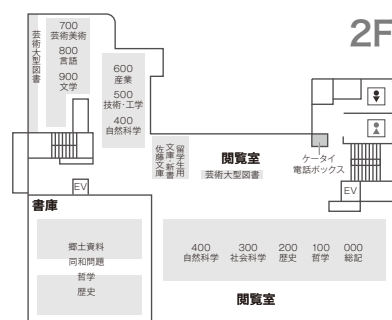
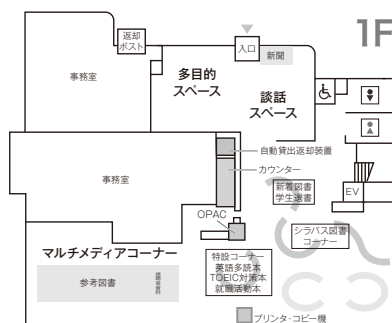
◆医学分館を担当

医学部にある医学分館を担当しています。

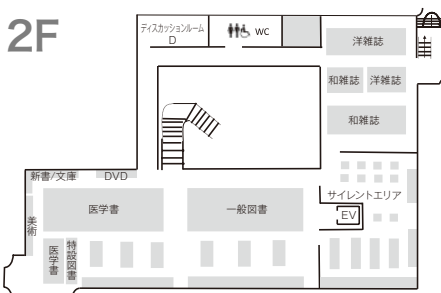
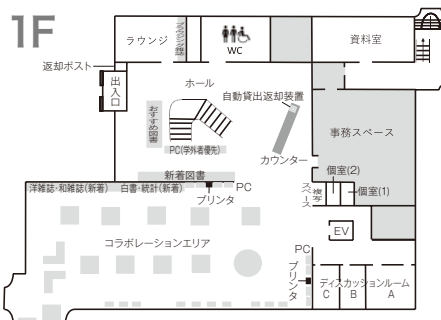
【業務内容】

- (1) 図書館資料(電子資料を含む)の閲覧、貸出及び管理、保全
- (2) 閲覧室及び書庫等の管理及び保全
- (3) 図書館及び図書館資料(電子資料を含む)の利用支援
- (4) 文献複写、図書の相互利用
- (5) 図書館資料(電子資料を含む)の収集、選択及び受入
- (6) 図書館資料(電子資料を含む)の目録編成、管理

本館



分館



図書館日誌(行事・会議・研修等)

令和3年

- 4月16日 令和3年度九州地区国立大学図書館協会総会(琉球大学 オンライン)
- 5月6日 令和3年度第1回医学分館運営委員会(書面会議)
- 5月25日 令和3年度福岡県・佐賀県大学図書館協議会総会(佐賀大学 書面会議)
- 5月31日 令和3年度第72回九州地区大学図書館協議会総会(琉球大学 書面会議)
- 6月2日 令和3年度佐賀県読書推進運動協議会理事会・総会
- 6月5日 令和3年度佐賀県立図書館主催研修会(広報研修 オンライン)
- 6月25日 令和3年度第51回国立大学図書館協会総会(オンライン)
- 7月2日 令和3年度佐賀県立図書館主催研修会(著作権研修 オンライン)
- 7月6日 令和3年度第19回日本古典籍講習会(オンライン)
- ～7月8日
- 7月27日 令和3年度第1回附属図書館運営委員会(オンライン)
- 8月16日 令和3年度九州地区大学図書館協議会編集委員館会議(九州大学 書面会議)
- 8月27日 令和3年度佐賀県大学図書館協議会総会(書面会議)
- 9月1日 令和3年度第2回医学分館運営委員会(書面会議)
- 9月9日 令和3年度佐賀県立図書館主催研修会(メディアドクター オンライン)
- 9月13日 第9回中国・四国・九州・沖縄地区大学図書館職員フレッシュパーソンセミナー
- ～9月14日
- 10月1日 令和3年度第2回附属図書館運営委員会(書面会議)
- 10月8日 令和3年度九州地区国立大学図書館協会実務者連絡会議(琉球大学 オンライン)
- 10月8日 令和3年度第1回福岡県・佐賀県大学図書館協議会南部地区研究会(オンライン)
- 10月13日 令和3年度九州地区国立大学法人等テーマ別研修(オンライン)
- ～10月15日
- 10月18日 令和3年度九州地区医学図書館協議会総会(書面会議)
- 10月26日 令和3年度大学図書館職員短期研修(オンライン)
- ～10月29日
- 11月9日 図書館月間2021 (オンライン)
- ～11月30日
- 11月25日 令和3年度九州地区医学図書館員セミナー (オンライン)
- 12月6日 令和3年度第1回附属図書館評価専門委員会(オンライン)

- 12月10日 令和3年度国立大学図書館協会地区協会助成事業 図書館資料のカビ・水害に関するセミナー (オンライン)
- 12月15日 令和3年度第3回附属図書館運営委員会 (オンライン)
- 12月20日 令和3年度九州地区国立大学附属図書館館長(部・課長)会議 (オンライン)
- 12月23日 令和3年度佐賀県立図書館主催研修会(接遇研修 オンライン)

令和4年

- 1月 6日 令和3年度第1回附属図書館貴重資料・地域貢献専門委員会 (オンライン)
- 1月 7日 令和3年度第3回附属図書館医学分館運営委員会 (書面会議)
- 1月12日 令和3年度第4回附属図書館運営委員会 (オンライン)
- 1月24日 令和3年度佐賀大学附属図書館外部評価実施
- 2月 4日 令和3年度第2回福岡県・佐賀県大学図書館協議会南部地区研究会 (オンライン)
- 2月 9日 令和3年度第2回司書のつどい(ホテルニューオータニ佐賀 対面)
- 2月10日 令和3年度第4回附属図書館医学分館運営委員会 (書面会議)
- 2月22日 令和3年度第5回附属図書館運営委員会 (オンライン)
- 3月 2日 令和3年度本庄地区総合防災訓練 (オンライン)
- 3月18日 令和3年度第6回附属図書館運営委員会 (書面会議)
- 3月22日 令和3年度第5回附属図書館医学分館運営委員会 (書面会議)

貴重書紹介

小城藩の「旧記方」について

解説

本館所蔵小城鍋島文庫の代表的な史料のひとつである「小城藩日記」には、作成者として「旧記方」と記されているものが何点か存在する(写真1)。「小城藩日記」自体は小城藩の政務の中心である「請役所」で作成されたとみられるが、旧記方はどのような役割を果たしていたのか。

旧記方は、その名称どおり小城藩の「旧記」を記録する部署だった。小城藩役人の勤務規定をまとめた「諸役人勤心得」(写真2)という史料に、旧記方に関する記述がある(写真3)。その内容を紹介してみよう。

- ①毎日午前10時頃から午後2時頃まで勤務すること。
- ②今後の役に立ちそうな情報を毎日いろいろな役人から収集し、詳しく記録すること。
- ③以前から伝わっている記録類をきちんと整理すること。記録が欠けているところがあれば、他部署の記録や書類などを調べて充当すること。また今後藩政・行政のうえで参考にしそうな内容はきちんと整理しておき、すぐに閲覧できるようにすること。
- ④過去の事例を必要とするときは、すぐに調べて提出すること。
- ⑤小城藩家臣の「人別」(戸籍)を管理すること。
- ⑥毎年6月に記録類を虫干しすること。

現代と比べれば勤務時間が短いように感じるが、まだ「曜日」の概念がないため基本的に毎日勤務となる。また仕事が忙しいときには、やはり残業もあっただろう。その他の規定では、⑤の戸籍管理をのぞけばすべて記録の管理にかかわる内容である。今後の藩政に関する参考資料として丹念な調査・記録作成が求められており、小城藩にとってとても大事な部署だった。

写真1のように「旧記方」と記された「小城藩日記」は、原本が虫食いなどによって使いづらくなったために作成された写本である。また現在公開中の「小城藩日記データベース」に用いている「日記目録」も、旧記方で作成された。「日記目録」は上記規定④のために作成されたと考えられる。江戸時代は記録がとても大事にされ、後世に遺された時代だった。そのおかげで、現代の我々がさまざまな歴史に触れることができるのである。



写真1 「旧記方」と記された「小城藩日記」



写真2 諸役人勤心得



写真3 旧記方勤務規定